

郡山市議会 志翔会 議会報告 平成31年3月定例会特集

2019年度中に豊田浄水場跡地の利活用イメージ案を提示！
(志翔会代表質問当局答弁より)

2月28日志翔会の代表質問において、旧豊田貯水池への跡地利用について、駐車場や自由広場等としての暫定利用の早期開始等志翔会会派要望に対する受け止め方及び新年度における具体的な進展の考えを質したのに対し、市当局は、2019年度には、豊田浄水場跡地利用について外部委託によりいくつかの利活用イメージ案を作成し、市民の皆様に示せるよう取り組んでいきたいと回答。

3月定例会
概要

平成31年3月定例会が閉会し、平成30年度3月補正予算、平成31年度当初予算をはじめすべての提案議案を可決しました。そのうち平成31年度予算については、一般会計1,401億44万8千円、特別会計633億3,141万2千円、企業会計337億2,697万6千円、合計2,371億5,833万6千円となっています。

平成31年3月定例会

代表質問 要旨

志翔会会長 七海喜久雄



健康推進活動の展開について

問 健康意識の普及促進活動は多岐に渡る。現在、これらの事業を管轄する部署は複数に渡っており、また、身近な健康相談を気軽にワンストップで実施する体制にはなっていない。そこで、今後、専門部署等の設置も含め、相談事業の展開を図るべきと考えるが当局の見解は。

答 専門的な見地や市民の立場から幅広く意見を求めることを目的に、郡山医師会など健康づくりに取り組む関係機関等から構成され本年1月に設置した「郡山市健康づくり推進懇談会」で意見を伺うとともに、健康相談や保健指導を実施する市保健センターの機能を整理し、体制を強化することによって気軽にワンストップで相談できる体制の構築を検討していく。

GAP認証の取得状況について

問 平成30年・31年とふくしま県GAP認証について、郡山市として数値目標を定め積極的に進めるよう会派として要望しているが、現在、本市として、このGAP取得状況はどうなっているのか。

答 昨年10月には「JA福島さくらASAKA MAI887 GAP部会」がふくしま県版のGAPであるFGAP認証を取得したのをはじめ、熱海町の果樹生産者がFGAP、喜久田町の稲作生産者がJGAPを取得するなど、今年2月現在で合計3件10戸が第三者認証GAPを取得したところである。



大内嘉明顧問の関連質問(大木進議員一般質問)でふれられた藤田川ふれあい桜(喜久田町)

3月定例会市政一般質問

要 旨

市街化調整区域での地区計画策定について

問 「(仮称)郡山市市街化調整区域地区計画運用指針」におけるコミュニティ維持型(既存集落型)について、本市では対象地区として「建築物がおおむね200以上連たんしている一団の集落内」を条件としているが、県内の事例を見ると、福島市が50以上、いわき市では40以上、福島県の指針も40以上としている。本市において200以上連たんする集落を条件とした理由は、また、このような条件に合致した集落は何箇所あるのか。



馬場 大造



答 建築物の連たん数について、同一の敷地に母屋以外の建築物も立地していることから、本市では母屋以外を含む建築物の総数を条件とし、現時点で「建築物がおおむね200以上連たんしている一団の集落」と設定している。200を超える集落については20地区程度あるものと把握しており、200を下回る集落も柔軟に対応する。

廃校等の利活用について

問 昨年3月定例会市政一般質問では、中央図書館3階にある教育研修センターについて、西田町の廃校を利用し、様々な研修を再構築した拠点にしてはどうかと提案した。その後昨年10月に、研修センターを旧三町目小学校へ移転する計画が発表されたが、移転後の教育研修センターでは、新たな拠点でどのような研修を予定しているのか。

また、教育研修センター移転後、中央図書館3階空きスペースについては、主に学習室として活用するとの説明があったが、規模や安全対策も含めどのように運用するのか。

答 「ICT教育の拠点機能を備えた中核市にふさわしい近未来の研修施設」を基本方針とし、ICTを活用しての教材製作や配信、プログラミング学習に対応した研修や体育実技等の研修も実施する考え。今後、旧三町目小学校の施設特性を十分に活かし、教職員の資質能力の一層の向上を図ることができる効果的、実践的な研修を行っていく。中央図書館3階空きスペースの活用方法は、一般学習室として48席、パソコン利用者用学習室として24席設けるほか、飲食専用コーナーも設ける。これにより学習スペースの総数は現在の85席から139席となる。また、さらに防犯カメラ4台を増設し、安心できる学習環境を整備する。



旧三町目小学校 (西田町)

子育て支援について

問 本年1月の第25回子ども・子育て会議において委員より母子生活支援施設について、「利用者が減少しているがニーズが無いわけではなく、今のあり方とのミスマッチを感じる。母子家庭へのセーフティネットはまだ必要だと思う」や、「本市はセーフティコミュニティに取り組んでおり、改修、新設いずれにしても、全国に先駆けて素晴らしい施設をつくるのが第一歩、この会議においてそれらを積極的に決めていくことが重要」等の意見が出され、これらの発言を私は大変重いものと感じているが見解は。



山口 信雄



答 会議において、母子生活支援施設の経過及び概要を説明し、11名すべての委員から様々な意見や感想が寄せられた。今後委員には、国の施策や他市の状況を説明し、母子生活支援施設の全体像等の共通認識にたつて今後の方針について話し合い、総合的に母子生活支援のあり方について検討していく。



郡山市母子生活支援施設ひまわり荘

地区防災計画づくりに向けた取り組みについて

問 昨年県は、町内会単位での避難行動のための地区防災マップ作成の支援を行った。県内4団体が指定され、その中に日出山地区が選ばれ同地区では、9月から11月まで3回にわたりワークショップを開催し、県防災士会の指導のもと、地区防災マップを作成した。しかし、地区防災マップをいかした住民参加の避難訓練や「地区防災計画」策定までには至っていない。来年度以降も県もしくは本市により、今回の活動を継続するための支援は行われる予定なのか。また、この活動結果を他地区に広げる考えはあるのか。

答 本市としても平成31年度も当地区における「地区防災計画」の作成に向け、県と連携しながら支援していく。また、先導的な取り組み地区を水平展開していく。

水路側溝整備について

問 各自治会等の市民からの水路側溝整備についての要望件数は、年々増加傾向にあり、セーフティコミュニティ活動による市民の安全・安心を守る観点から、危険箇所と思われる水路側溝の整備・改修は最優先課題と考える。市所有の水路側溝の維持管理の現地調査の現況と危険箇所等のメンテナンスについての見解は。



大木 進



答 地域からの要望や市民からの通報、コナビこおりやまの投稿等に基づき、現地を確認し緊急度や危険度の高いものを優先に、破損箇所の補修や土砂のしゅんせつ、水路敷地の草刈り等の実施や週2回の職員パトロールに加え、台風や降雨時期前に水路等の点検を実施し、発見した不具合箇所を補修している。今後も、水路側溝の適切な維持管理を行い、安全・安心で快適な生活環境の確保に努めていく。

自主防火管理について

問 昨年11月から2月中旬まで、平成以降最悪の犠牲者を出した建物火災は、県内で設置率が低い住宅用火災警報器の必要性を浮き彫りにしている。県内の設置率は74.6%で全国ワースト5位の水準であり、残念ながら、住宅火災で亡くなった方の6割は逃げ遅れで、その中の7割が高齢者である。命を守るためには「いかに早く出火に気づけるか」が重要であるが、本市の住宅火災警報器設置促進を図るため住民への周知方法の取り組みは。

答 郡山地方広域消防組合との連携により、住宅用火災警報器の設置促進について「広報こおりやま」や「ふれあい消防119」への掲載等設置促進の啓発を行ってきた。このような状況の中、昨年11月に建物火災が発生したことから、「ふれあいネットワーク」による情報提供を行ったほか、町内会長等と市長との懇談会や民生委員協議会連絡会において、チラシの配布を行い、また、広域消防組



命を守る住宅用火災警報器
(郡山地方広域消防組合ウェブサイトから)

計 報



高橋隆夫議員 ご逝去

平成31年3月3日、志翔会顧問 高橋隆夫議員がご逝去されました。平成7年の当選以来6期約24年の議員生活の中で、平成25年から27年にかけては市議会議長も務め、議長在職中は、郡山市議会基本条例や郡山市手話言語条例の制定などにご尽力されました。

平成28年5月の志翔会結成に際しても大きな役割を果たされ、また、亡くなる直前まで先進地への行政視察や若手議員を集めての勉強会など精力的に活動を行われていまし

た。ライフワークとしては「人になれ、奉仕せよ」の精神を胸に、障がいを持つ人の支援に取組み、郡山市ボランティア協会会長、福島県ボランティア連絡協議会会長も務められました。今では、「ボランティア」といった言葉が当たり前のように使われていますが、郡山において「ボランティア」という言葉を広めたのも高橋隆夫議員の功績ともいえます。高橋隆夫議員の訃報に接し、改めて御霊の安らかたらんことを衷心よりご祈念申し上げます。

合が企業の協力を得て2月28日から牛乳パッケージに啓発広告を掲載しており、今後も設置促進に向けた取り組みを行う。

第2層協議体設置の目的について

問 高齢者が要介護状態となっても住み慣れた地域で暮らし続けられるように各地域に協議体を設置し、生活支援や介護予防につながる住民主体の地域づくりを推進するとして、平成31年度には20地区程度の設置目標が定められている。現在、各地域で説明会が行われ、第2層協議体の設置に向けた準備が進められている。改めて何うが、どのような目的で設置を進めているのか。



佐藤 徹哉



答 第2層協議体は、町内会や民生児童委員協議会、社会福祉協議会等のほか、地域の皆様、福祉施設、ビジネスの世界の各種施策、更に地域の企業や商店などを地域の支え合いを話し合う場として想定し、それぞれの持つ情報を共有しネットワークの構築を行い、地域で何ができるかを考え、できる範囲で課題解決に努め、役割を分担することで「地域福祉チーム」として「互助」の考えのもと、「住民が主役の助け合いのまちづくり」を目指すものである。

旧豊田貯水池の利活用について

問 何か新しい施設を建設する際、大きな予算が必要であり、独自財源でこれを実現しようとする場合、慎重になりすぎて、決定が先送りになりかねない。そこで、有明アリーナ、新潟県立武道館、仙台市の「スポパーク松森」のように、PFI方式を採用し、民間活力を最大限に活用してはどうか考えるが、見解は。

答 本市において新たな施設整備を検討する際には、2017年3月に策定した「郡山市



郡山グランドデザインProject（郡山商工会議所）では交通を軸とした豊田貯水池跡地利用を提言

PFIガイドライン」の規程によりPFI導入の検討を行うこととしている。最終的な利活用方針が定まった後、このガイドラインに則り、市が従来型の手法で直営により行うのか、デザインビルド方式で行うのかなど、PFI方式を含めた事業手法の選定について、整備方針内容との兼ね合いを見ながら総合的な検討を行う。

こおりやま広域圏内の農産物等の海外販路の創出・拡大について

問 新年度事業「こおりやま広域圏内の農産物等の海外販路の創出・拡大」を進めることとしているが、具体的には本市及び広域圏内各市町村のどのような強みを活かし、販路を拡大していくのか。



塩田 義智



答 一般財団法人自治体国際化協会の「海外販路開拓支援事業」の助成金を活用した「郡山広域圏農産物等輸出創出事業」にかかる予算を計上した。本事業の対象国は、すでに本市産の梨が輸出され、本市の外国人登録者数が2018年12月現在で596名いる本市との関係の深いベトナム国とし、広域圏産品の輸出を促進する考えであり、他自治体とスキルを共有し、広域圏の資源をいかした輸出による販路拡大を図り、経済成長を促進したい。



ベトナムでも人気の郡山産の梨

寺子屋郡山について

問 2018年度の寺子屋郡山と教育環境パワーアップ事業の実施状況は。

答 寺子屋郡山については、2018年度も1年を4期に分けて合計30回の講座を土曜日に実施し、1期42名、2期45名、3期51名、4期51名、延べ189名の児童生徒が受講している。また、2018年度の地域を活かした教育環境パワーアップ事業のうち、土曜日等の休日や長期休業日、放課後の学校外の活動は、

小学校42校4,595名、中学校26校1,702名、義務教育学校1校79名、合計69校延べ6,376名の児童生徒が参加した。

市道大町大槻線について

問 現在、整備が進められている市道大町大槻線は、開通することにより、大槻町を取り巻く近隣地区に住む住民の利便性も高まり、市民サービスの向上に大きく寄与するものと考えられる。そのため、1日も早い開通が望まれるが、現在の進捗状況と供用開始の予定は。



諸越 裕



答 2013年度から事業に着手し、2018年度で約260メートルが完了し、現



市道大町大槻線

在の進捗率は、延長ベースで約40%となっている。また、供用開始の予定については、現時点において、当初計画の2020年度を目標に整備を進めているところである。

大槻川整備について

問 大槻町の中心部を東西に流れる大槻川は、改修工事が行われてきてはいるが、ゲリラ豪雨等による床下浸水等被害の発生が、未だ危惧されている。そこで、誰もが安心して暮らし続けることができる地域を実現させるため、大槻川の整備を着実に進めるべきと考えるが見解は。

答 2018年度末現在、大槻中央幼稚園付近までの約6.6キロメートルの河川改修が完了し、整備率は約88%となっている。2019年度においては、逢瀬川との合流部の円滑な流れを確保するため、河床整備を行うとともに、東北自動車道西側、上流部では、浸水被害の軽減を目的にグリーンインフラの取り組みとして、水田が持つ貯水力を活用した「田んぼダム」の実証研究を日本大学工学部と連携し、実施していく。今後も治水安全度の向上を図るため、河川改修を推進するとともに適切な維持管理に努め、河川環境づくりに努めていく。

写真で見る志翔会

保土谷化学・日東紡工場を視察しました



保土谷化学郡山工場



日東紡富久山事業センター

2月13日、地元の産業状況の実情把握のため、郡山駅東口にある保土谷化学郡山工場と富久山町にある日東紡績・富久山事業センターを視察しました。保土谷化学では、業務用の漂白剤からスマートフォンの液晶画面の材料である有機EL、有名菓子店のバームクーヘンでも使用されている食物からつくった特殊な食品用染料、日東紡郡山工場では、スマートフォン筐体用や自動車で使用されているグラスファイバーや診断医薬品など世界最先端の技術を駆使したものづくりの現場を目の当たりにし、参加した議員一同、2つの工場が、地元雇用の安定と国内・世界経済への貢献度の高さを改めて認識しました。

提言書を市長へ提出しました

3月定例会初日の2月21日、人口減少社会対策特別委員会の人口減少社会に向けた提言書を品川市長に提出しました。また、同時に設置された議会改革特別委員会での審議の結果の概要も説明しました。議会改革として、今年の9月定例会からタブレット端末を使ったICT議会になるとともに、一般質問も市民の皆様に分りやすくするため一問一答方式と現行の方式と選択ができるようになります。



品川市長へ提言書を提出

第4回志翔会議会報告会・講演会のお知らせ

日時

平成31年6月22日(土)
午後2時～午後4時

入場無料

場所

ビッグパレットふくしま
コンベンションホールA

内容

- ・議会報告
(平成31年3月定例会を中心に)
- ・参加者との市政に関する意見交換

記念
講演

『ひまわり荘の重要性を考える』
～母子生活支援施設の役割から考える児童虐待への対応～
午後2時30分から(予定)

講師



福島大学
人間発達文化学類
特任教授

安部 郁子氏



母子生活支援施設
くらき(横浜市)
施設長

成田 信子氏

二人の専門家による対談形式で、母子生活支援施設の重要性と児童虐待への対応の中での施設の役割を考え、児童虐待や貧困のない郡山市となるための行政の役割を再認識します。

参加希望の方は、氏名・住所を明記の上、FAX(024-922-5265)またはメール(mk@at-koriyama.jp)でお申し込み下さい。当日の参加も大歓迎です。

ご入学・ご進学・ご就職おめでとうございます



大内 嘉明 おおうち よしあき

- 当選5回
- 志翔会顧問
- 所属/文教福祉常任委員会
- 連絡先/〒963-0546
喜久田町早稲原字弥五郎15
TEL.024-959-2319



鈴木 祐治 すずき ゆうじ

- 当選5回
- 志翔会顧問
- 所属/文教福祉常任委員会
- 連絡先/〒963-1154
田村町岩作字小人町99番地
TEL.024-955-2172



七海喜久雄 ななうみ きくお

- 当選4回
- 志翔会会長
- 所属/総務財政常任委員会
- 連絡先/〒963-0837
中田町駒板字南115番地
TEL.024-922-9587



佐藤 政喜 さとう まさき

- 当選3回
- 所属/市議会議長
- 連絡先/〒963-0201
大槻町字中ノ平55番地
TEL.024-951-2316



久野 三男 ひさの みつお

- 当選3回 ●志翔会政務調査会長
- 所属/総務財政常任委員会委員長
議会運営委員会
議会改革特別委員会
- 連絡先/〒963-8811
方八町一丁目3番11号
TEL.024-943-3200



近内 利男 こんない としお

- 当選3回 ●志翔会副会長
- 所属/環境経済常任委員会委員長
議会運営委員会
人口減少社会対策特別委員会
- 連絡先/〒963-0702
緑ヶ丘東二丁目4番地の8
TEL.024-942-7967



諸越 裕 もろこし ひろし

- 当選3回
- 所属/市監査委員
建設水道常任委員会
- 連絡先/〒963-0201
大槻町字殿町35番地
TEL.024-952-4258



塩田 義智 しおた よしとも

- 当選3回 ●志翔会副会長
- 所属/総務財政常任委員会
議会運営委員会
議会改革特別委員会委員長
- 連絡先/〒963-0121
三穂田町川田字小樋41番地
TEL.024-945-2015



川前 光徳 かわまえ みつのり

- 当選2回 ●志翔会幹事長
- 所属/総務財政常任委員会
議会運営委員会委員長
議会改革特別委員会
- 連絡先/〒963-8877
堂前町12番6号
TEL.024-922-5265



佐藤 徹哉 さとう てつや

- 当選2回 ●志翔会事務局長
- 所属/文教福祉常任委員会委員長
議会運営委員会
人口減少社会対策特別委員会
- 連絡先/〒963-8862
菜根一丁目11番11号503
TEL.024-934-2585



大木 進 おおき すすむ

- 当選1回
- 所属/文教福祉常任委員会
人口減少社会対策特別委員会副委員長
- 連絡先/〒963-0551
喜久田町字赤沼向4番地の133
TEL.024-951-7290



山口 信雄 やまぐち のぶお

- 当選1回 ●志翔会会計担当
- 所属/総務財政常任委員会副委員長
議会運営委員会
議会改革特別委員会
- 連絡先/〒963-0111
安積町荒井字南千保1番地
TEL.024-945-2233



佐藤 栄作 さとう えいさく

- 当選1回
- 志翔会政務活動費担当
- 所属/建設水道常任委員会副委員長
人口減少社会対策特別委員会
- 連絡先/〒963-8047
富田東一丁目146番地
TEL.024-932-2780



森合 秀行 もりあい ひでゆき

- 当選1回
- 志翔会広報担当
- 所属/環境経済常任委員会
議会だより編集委員会委員長
議会改革特別委員会副委員長
- 連絡先/〒963-0119
巳六段50番地1号
TEL.024-953-7885



馬場 大造 ばば だいぞう

- 当選1回
- 所属/建設水道常任委員会
- 連絡先/963-1151
田村町金沢字大久保64番地
TEL.024-953-5976

※議会改革及び人口減少社会対策の両特別委員会は、3月定例会初日の2月21日をもって廃止されました。

編集
後記

新元号が公表され、新しい時代のスタートとなります。IoTやAI、ビッグデータなど現代の最新テクノロジーを活用した社会の仕組みをつくるSociety5.0(ソサエティ5.0)の幕開けともなり、経済発展と社会的問題の解決や、人間が質の高い生活を送る事が期待されますが、人として相手を思いやる気持ちなど、心の豊かさを育てていくことも重要だと感じます。世の中どんなに便利になっても、人と人との繋がりや絆を大切に大事にしていきたいと思ひます。(佐藤 栄作)

志翔会だより ■発行責任者：七海喜久雄 ■編集委員：佐藤 徹哉 大木 進 山口 信雄 佐藤 栄作 森合 秀行(編集責任者)

http://www.shishoukai.jp/ 市政に関するお問い合わせ・ご意見は 郡山市朝日 1-23-7 志翔会 ☎ 924-2502 へ